

研究室配属、および卒業研究について

情報電子工学科 竹野 茂治

卒業研究は、4年生の大半の時間を費して、ある研究テーマに関してなんらかの結果をまとめる作業である。研究テーマは今までに学習したものだけでは足りないこともあるし、学習してきたことが身につけていない場合もあるので、そのための準備としてのセミナーや計算機の実習などを行う必要がある。

また、研究室に配属されると、助言教員も研究室の担当教員に変わり、大学での生活リズムも研究室単位に動くことが多くなる。そのため、各研究室ごとに行動計画、行事、運営方針などが立てられる。

以下に、この研究室に関する注意を述べる。

1. 研究室の運営は学生が主体的に行うこと

研究室の主体は教員でなく学生であるのが望ましい。研究室内の行事の運営は学生が計画を立て、必要ならば教員と相談の上行う、という形をとるべきである。セミナーに関しても、必要と思われるものは学生が自主的に行うことを勧める。

2. 卒業研究も自らが主体的に考えよ

卒業研究は、教員が行うのではなく学生が行うもの。卒業研究のテーマも、本来は教員から与えられるのではなく自らが見つけるのが望ましい。卒業研究のテーマが決まるまでは、テーマとなりそうな話題で興味の持てそうなものを探すように心がけて欲しい。

3. 研究室内は清潔に保つこと

研究室は普段学生が使用するのであるから、自分達で定期的に清掃し、部屋を清潔にすること。また、計算機があるため、埃が溜らないように2週間に1度は掃除機をかけること。研究机上での飲食は構わないが、計算機に触りながらの飲食は厳禁とし、研究室内での喫煙は禁止する。入室の際は、上履きに履き替えてから入り、計算機を使用するときは手が汚れていれば手を洗って水気をよく拭き取ってから使用すること。

4. 拘束時間

実社会に出れば必然的に会社に勤務時間を拘束される。また、時間を守ることは、社会人の最低限のマナーとして要求される。そういったことを身につけるためにも、研究室には朝 9:00 までに出て来て、夕方 16:10 までは研究室に居ることとする。もちろん、用事がある場合、講義等は研究室を抜けても構わないが、その場合、連絡が取れるように所在を明らかにすること。

5. 研究室内ではアカデミックな立場を優先する

研究室内では拘束時間の間、卒業研究を優先して勉強、実習すること。私語や息抜きが他の人の学習を妨げることがあってはならない。

以下はある大学の、ある研究室の教員が作成した、卒業研究に関する心構えである。卒業研究とはどんなものなのかということが簡潔に書いてある。

「卒業研究」について、研究室における学生の心得

[http://www.geocities.jp/yamasakissei/for_student/
for_bachelor/for_bachelor_body/the_dos_and_donots.html](http://www.geocities.jp/yamasakissei/for_student/for_bachelor/for_bachelor_body/the_dos_and_donots.html)

この研究室に配属されて、不満を持つものもいるかもしれないが、それは決して前向きな姿勢とは言えない。定められた枠内で、自分の能力を最大限発揮するよう努力し、卒業研究の期間を充実して過ごしてもらいたい。

(平成 10 年 09 月 21 日)

(平成 13 年 04 月 13 日改訂)

(平成 13 年 10 月 06 日改訂)

(平成 20 年 03 月 08 日改訂)